

□ 要請番号 (JL04825A07)

募集終了



| 国名 | 職種コード 職種 | 年齢制限 | 活動形態 | 区分 | 派遣期間 | 派遣隊次 |
|------|----------|------|------|----|------|---------------------------|
| ブータン | G210 地質学 | | 個別 | 新規 | 2年 | ・2025/3・2026/1・ 2026/2 |

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

エネルギー・天然資源省

2) 配属機関名 (日本語)

地質鉱山局 地質調査課

3) 任地 (ティンブー県ティンブー市) JICA事務所の所在地 (ティンブー市)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (徒歩 で 約 0.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

エネルギー・天然資源省は、ブータン国のエネルギー、水資源、地質鉱山、森林保全、電力などを管轄する省庁で、6つの部局から成る。配属先の地質鉱山局は、鉱物資源にかかる政策の作成、採鉱や地質調査の管理・監督を担当しており、①地質調査課、②地質災害課、③鉱物政策・地籍課、④鉱業課に分かれている。このうち、地質調査課の主な役割は、鉱物資源の探査と開発で、そのための地質調査や地質図の作成などを行っている。2025年2月現在、同課の職員数は35名 (うち、8名が地質エンジニア)、年間予算は約4800万円。2021年に終了した「鉱業開発計画策定プロジェクト」の協力先で、日本に留学経験のある職員も在籍している。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

ブータンでは、国連やインド地質調査所が作成した地質図により、多様な鉱物資源が存在することが確認されている。しかし、急峻な地形によるアクセスの制限や、国の厳格な天然資源保護政策などにより、地質・資源の調査は十分に実施されていない。また、ブータンは、ドロマイト、石灰石、石膏、大理石などの工業原料資源が豊富で、インドやパングラディッシュにも輸出している一方、金属鉱物資源については、ほぼ未開発である。近年、戦略的金属鉱物資源の開発が注目されていることもあり、配属先の金属鉱物資源分野の人材育成を支援するため、隊員の派遣要請がなされた。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

配属先スタッフと協力しながら、下記の活動を行う

- 配属先本部において、収集したデータの分析を行う。
- ブータン南部にあるフィールドに出張し(1週間程度)、金属鉱物資源の探査を行う。
- 配属先スタッフに知識共有や技術移転を行う。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

ドローン (MagDrone R3)、GEM-SYS磁力計、微動探査装置、電気抵抗トモグラフィー、地震波トモグラフィー

4) 配属先同僚及び活動対象者

【配属先同僚】

課長: 男性 30代 (修士)

カウンターパート: 男性 20代

その他同僚35名 (20代~50代)

【活動対象者】
同僚の地質エンジニア8名

5) 活動使用言語

英語

6) 生活使用言語

その他

7) 選考指定言語

英語(レベル:B)

【資格条件等】

[免許/資格等]： ()

[性別]： () 備考：

[学歴]： (大卒) 理工系 備考：同僚の学歴水準に合わせるため

[経験]： (実務経験) 10年以上 備考：即戦力が求められるため

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]： (温暖冬季少雨気候) 気温： (-5~30℃位) [電気]： (安定)

[通信]： (インターネット可 電話可) [水源]： (安定)

【特記事項】

- ・フィールド出張では山道を長時間歩き、テント泊の可能性もある。
- ・任地での生活使用言語は英語もしくはゾンカ語。ゾンカ語については、現地訓練期間に語学研修を行う予定。
- ・2025年春募集では、同局の地質調査課からも隊員(地震)の要請がなされている。

【類似職種】

- ・鉱業
- ※活動内容が類似している要請が含まれる職種を表示しています。職種に拘らず要請内容でもご検討ください。